お役立ち情報　屋根リフォームの基礎知識

屋根リフォーム～材料編～

’最も過酷な環境’にいるのが屋根です！
雨・風それから日光（熱）に常時さらされている部分ですから、それだけ痛みも大きく、定期的な点検・修繕が必要。水（雨漏れ）は家にとって大敵ですから、屋根は家を守ってくれる最も大切な味方と言えるでしょうね。

実家をリフォームしようと思っています。
コストを抑えてやりたいのですが、屋根の材料は何がいいでしょうか？

訪問販売の人に、「瓦がずれている」と言われました…　心配なので診てほしいのですが…

金額面と耐久性を比べて、屋根材を何にしようか悩んでいます。　瓦は重たいから地震に弱いというのは本当でしょうか？
いろいろな面から考えて、１番いい屋根の材料って何ですか？

セメント瓦

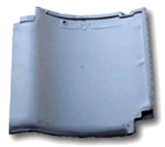
厚型スレート、コンクリート瓦とも言われます、セメントと砂で作られ表面は塗装をして色付けします。セメントは割れやすく強度、耐久性に劣り塗装も必要になります。　築20年以上のお宅の場合、セメント瓦が多いですね、そろそろ瓦の色あせや、割れ・ずれが出てきていると思います。

陶器瓦

粘土にうわ薬をかけ高温で焼成したものです。従来の瓦より軽量で、近代住宅に多く使用されます。形もJ形（和形）とF形（洋風の平板瓦）があり当社でも１番良く使うものです。
セメント瓦やカラーベストからの葺き替え工事が多いですね。

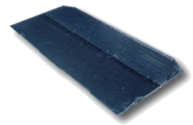
いぶし瓦

陶器瓦と同じ材料ですが、焼き方が違います。うわ薬を使わず表面に炭素膜を作り渋い銀色をした瓦です。　高価で純和風建築、主にお城や神社に使われ、本瓦とも言われます。



スレート

カラーベストとも言われ、セメントと繊維を主原料とし、繊維に石綿（アスベスト）が含まれる為問題になっていますね。
現在のものには石綿は含んでいませんが、その分強度が弱くなりました。陶器瓦よりも安価で出来る為、建売住宅に多く使用されていますが、寿命が短く塗装が必要なのが難点。軽量なので耐震性には優れます。



金属瓦

かわら棒とも言われます。合金（ケルバリウムなど）を使った薄い屋根材で、軽量なのが利点です。しかし防音・断熱に劣ります。塗装が必要ですが寿命は長いですね。

設計担当 兼 店長
藤本伸浩

お客様からよく質問されるのが、「工事にかかる金額差」「耐久年数の差」「耐震性（屋根の重さ）」ですね。
屋根材の重さは年数がたっても同じ、最初に選ぶ材料によります。でも金額と耐久年数は深く関係しているので注意が必要です！工事金額が安価でも耐久年数が短ければ、すぐにリフォームが必要に…
’比較検討’が大切ですね。来月号で考えてみましょう！

お役立ち情報　屋根リフォームの基礎知識

屋根リフォーム～材料の比較編～

屋根材を選ぶポイントは、

①価格（費用）

工事にかかる金額は１番気になるところですよね。

②耐久性・メンテナンス性

寿命が短い材料ならメンテナンスにまたお金がかかります。

③自重（屋根材自体の重さ）

屋根が軽い方が地震の時に建物に伝わるユレが軽減されます。

④意匠性（デザイン）

和風の家と洋風の家では屋根のデザインも違いますからね。

今、スレート屋根です、随分色あせてきているからリフォームしたいと思います。どんな方法がありますか？

スレートの塗装（塗り替え）

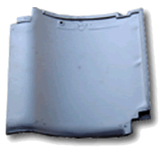
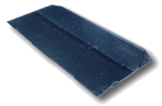
悪い部分だけ補修して防水塗装をします、安くあがりますが、塗料寿命は１０年ぐらいですよ。スレートの場合、塗り替えを２回ぐらいしてしまうと、スレート自体の寿命が来るのでいずれは葺き替えが必要です。

葺き替え

またスレートを葺くか、今度は瓦葺きにするか？初期コストは瓦の方が少し高いですが、20年ぐらいはメンテナンス不要でしょうね。スレートにすれば10年ぐらいで塗装が必要になるので、総合的に見ると瓦に葺き替えをおススメしますよ。

屋根はキッチンや内装のように毎日見ないから気になりににくい所ですが、家にとって最も大切な部分！後回しにしないで早い対策が重要ですよ。

※耐久性は日照等の立地条件、屋根の形状に左右されますので、あくまで参考年数です。

屋根材 ＼ 比較性能	セメント瓦	陶器瓦 平板瓦 軽量瓦	いぶし瓦 本瓦 和瓦	スレート カラーベスト	金属瓦 瓦棒 板金
価格（初期工事費用）	今は使いません	○	×	○	×
耐久	△ １５年	○ ２０年	◎ ５０年	× １０年 10年ごとに塗装が必要	◎ ３０年
自重耐震性	△	○	× 重たい瓦なので本瓦に適した構造の家屋でないとNG	◎	◎ 薄い金属板ですので軽くて丈夫
意匠	古い感じがしますね	和風・洋風と色や形が豊富	純和風	洋風 色は塗装でつけるので様々	和風・洋風合いますが見た目は…
ポイント	今セメント瓦の家は葺き替えがおススメ	リフォームで葺き替えの場合、主流になっています	現在、本瓦なら次も本瓦に	初期工事費用が一番安くできます	屋根材が薄いので断熱が必要ですね
施工例					
形状					

お役立ち情報　屋根リフォームの基礎知識

家にとって水は大敵！ 特に雨漏れは早期発見、即対応が大切です。

店長・設計担当
藤本伸浩

部屋の天井や壁がぬれていて初めて「雨漏れかなぁ！？」と気づきますよね、でも天井や壁に出てきていると言うことは、屋根裏や壁内部には既に水が入っていると言う事！すぐに専門家にご相談くださいね。

さて当社でも雨漏れのご相談は多い案件のひとつです。今まで遭遇した〝雨漏れの原因〟を少しお話ししましょう。

水は思いもよらない箇所から伝ってきているケースがあります。今までの経験を生かし、雨漏れの原因箇所を「予測」することが大切です！

難しいところですが…

【雨漏れの原因①】屋根

瓦の割れやズレ

漆喰の劣化

板金部分のさび

天井の雨漏れの場合、

１番多い原因は瓦ですね。

【雨漏れの原因②】庇と壁の取り合い

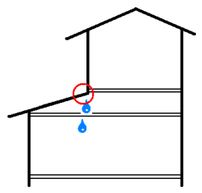
のし瓦の割れやズレ

漆喰の劣化

板金部分のさび

右写真の赤矢印が漆喰、青矢印がのし瓦

雨漏れしている天井の上がちょうど２階の外壁がある部分だと庇が原因かも？



【雨漏れの原因③】外壁

外壁のひび割れ（クラック）

塗装の場合、大概はひび割れを起こします、

しかし塗装表面のひびだけの場合が多く雨漏れの原因にはなりにくいのですが、地震や下地の施工不良により大きなひび割れが入るケースがありますね。

コーキングでひび割れを埋めて処理します↑

【雨漏れの原因④】サッシ（窓）

サッシ周辺の防水テープの劣化

サッシ周辺外壁のひび割れ

雨漏れの原因としてはこれも多いケースです。

サッシの取り付け施工不良やサッシと外壁の間の隙、防水処理（防水テープ）が劣化しているのが原因です。

外壁の中にあるので見た目は分かりませんが…

↑黒いのが防水テープ。